



国際連合 事務総長

「世界防災白書 - Living with Risk」の発行によせて
2002年7月

ここ数年、風水害、地震、地すべり、火山の噴火、森林原野火災などの災害が世界中で頻発しています。災害で幾万もの命が奪われ、数百億ドル相当の物的損失が発生し、とりわけ開発途上国に与える損害は甚大で、その結果、本来貧困からの脱却に全力で投入されるべき関心や物資・資金が拡散しています。

社会は常に自然災害に直面せざるを得ないのですが、現代の災害はしばしば人間活動により引き起こされるか、あるいは人間活動が災害の深刻さを助長させています。最も憂慮すべきは、人間が地球上の自然のバランスを変え、この地球を居住可能な惑星にしている大気、海洋、極地の氷雪、森林、その他の自然の恵みに対してかつてない干渉をしていることです。同時に、我々自身をも潜在的に危険な状態に置いているのです。歴史上、人類がこれほど地震多発地域周辺の都市に集中したことはありません。貧困と人口の過密化でかつてないほどの人々が氾濫原や地すべりの発生しやすい地域での生活を余儀なくされているのです。不適切な土地利用計画や環境管理の失敗、制度的枠組みの欠如が災害によるリスクや影響を増大させています。

「世界防災白書 - Living with Risk」は、全世界での防災への取り組みを国連が総合的に評価する初めての試みです。この報告書は、国連国際防災戦略（ISDR）事務局がまとめたもので、最近の災害傾向を分析するとともに、災害による影響の軽減を目的とする政策を評価し、防災への取り組みの成功事例を紹介しています。また、リスクの軽減は、地球的、国家的、地域的、あらゆるレベルでの持続可能な開発のなかに組み込まれるべきであると勧めています。

「Living with Risk」が提示している重要なポイントは、自然災害に対して我々が決して孤立無援ではないことです。早期の警報やリスク軽減策は、災害による死亡者数を大幅に減少させるうえで重要な要素となっています。新たな計画や予測手段のおかげで、洪水により決まって起こってきた荒廃状態が緩和されています。災害に強い国や社会をつくることは可能ですし、それが私達の責務であります。この報告書がより多くの方々の手元に届き、災害が多発するこの地球で生きていくために、世界中の人々が十分な備えを怠らないよう、国際社会が最善を尽くすことを願ってやみません。

コフィ・アナン